

産地活性化総合対策事業の薬用作物等地域特産作物産地確立支援事業(国産茶輸出拡大等促進支援事業)に関する事業評価票

1. 輸出用茶生産拡大への取組

(1) 成果目標が残留農薬低減の場合

都道府県名	事業実施主体名	受益者名	茶園面積 (a)	成分名	残留農薬値(ppm)				〔事業内容 具体的な 取組内容〕	地方農政局長の意見
					現況 (27年度)①	本年度 (令和2年度)	目標 (令和2年度) ②	増減率(%) ②/①		
東京都	日本茶輸出促進協議会	(公社)静岡県 茶業会議所 担当農家 ・川根めぐり園 ・松浦永治 ・丸芝製茶協同 組合 ・伊藤雅章外5名	40a	イミダクロプリド (アドマイヤー水和剤)	0.015	0.011	0.01	67%	主要輸出先である米国、EU、台湾を対象に、各国の残留農薬基準に対応できる茶生産を行うことの可能性を追求するため、主産地に実証圃を設置し、輸出先国MRLに対応する防除基準により茶栽培試験を行った。	残留農薬低減の目標については、ドリフト回避のため、隣接するほ場の農薬散布時の風向きの確認等を実施したところ、目標値を下回る農薬があったものの、イミダクロプリドで目標を僅かに上回る残留農薬値が検出されてしまった。このため、当該農薬の過去の実績値を整理したところ、同農薬は令和3年度に目標値を下回っていることが判明した。以上のことから、本事業については、本年度、目標値を下回らず未達成だった農薬があるものの、過年度に目標を達成していたことを鑑み、改善計画を徴収せず評価を終了することとしたい。
				クロルフェナピル (コテツフロアブル)	0.012	検出せず	0.011	92%		
		(公社)京都府 茶業会議所 担当農家 ・福喜農園 ・畑 広大 ・仲東真吾	450a	クロラントラニリプロール (サルコムフロアブル)	0.06	0.016	0.02	33%		
		計	490a							

注1:「本年度」の欄は、事業実施年度に取り組んだ残留農薬値を記入すること。

2:適宜、行を追加して記入すること。

* 達成度は実績値と目標値の比較による。実績値に幅がある場合、最大値を用いる。

2. 国内マーケット創出のための高品質・低コスト生産への取組

(2) 成果目標が新たな商品開発の場合

都道府県名	事業実施主体名	受益者名	到達目標	新たな商品開発の具体的な取組内容	地方農政局長の意見
東京都	日本茶輸出促進協議会	(公社)静岡県茶業会議所 担当農家 ・伊藤雅章 ・森 光広 ・井出剛彦 ・鈴木崇史 ・斉藤公和	内需及びインバウンド需要を中心とした調査結果をもとに新たな茶商品を1点開発する。	国内マーケット需要及びインバウンド需要に対し、消費動向等調査結果に対応した新たな茶商品(上質茶使用ドリンク)を開発。 【サンプル】 ①4000円/kgの原料を使い、浸出液に「富士山抹茶」を加えたもの。 ②700円/kgの原料茶(現在流通しているドリンクの平均的原料価格)使用 ③市販の「おーいお茶」 【新たな茶商品開発】 国内は元より、海外での消費に対して「急須」が必須条件とすることの無理を排し、普及し易い商品とする必要から、恰も個別の急須と言える「テトラパック型ナイロン紗」のティーバッグに上質茶を充填したものを試作。	インバウンド需要に対応した茶商品開発の目標について、改善計画に従い、より購買力の高い地域において製品化に協力できる店舗を選定し、「急須」を必要とせずに上質茶を味わうことができるよう、ティーバッグに上質茶を充填したものを販売したところ、目標を達成することができた。

注1:適宜、行を追加して記入すること。